

第 3 期八雲町総合計画 総合開発委員会

第 1 回審議会説明資料

令和 8（2026）年10月 7 日（水） 13時30分～
八雲町役場

1 総合開発委員会について

第3期八雲町総合計画は、令和8・9年度の2か年で策定します。総合開発委員会では、町民・各分野の立場から計画の方向性や内容についてご審議いただきます。

委員会の役割

町長の諮問に応じ、計画の方向性・内容を審議
町民や各分野・地域の立場から意見を提示
調査・町民意見・庁内検討を踏まえ、計画案を確認
最終的に計画案を取りまとめ、町長へ答申

主にご審議いただく内容

10年後の八雲町の将来像・基本理念
重点的に取り組む事項・重点プロジェクト
分野別施策、地域別構想
成果指標・進行管理の考え方 など

●委員会の開催予定（現時点）

令和8年度	第1回	現況・策定の進め方の共有／意見交換（10月7日）
	第2回	アンケート結果・町民意見の整理／基本構想の検討（年度内）
令和9年度	第3回～	基本構想・基本計画の検討（6回程度を予定）
	最終回	計画案の取りまとめ・町長への答申

※開催時期・回数は今後の調整により変更となる場合があります。

1 第3期総合計画の策定・検討体制

データ・行政の実感・町民等の声の3方向から材料を集め、総合開発委員会での審議と庁内調整を重ねながら計画をつくります。

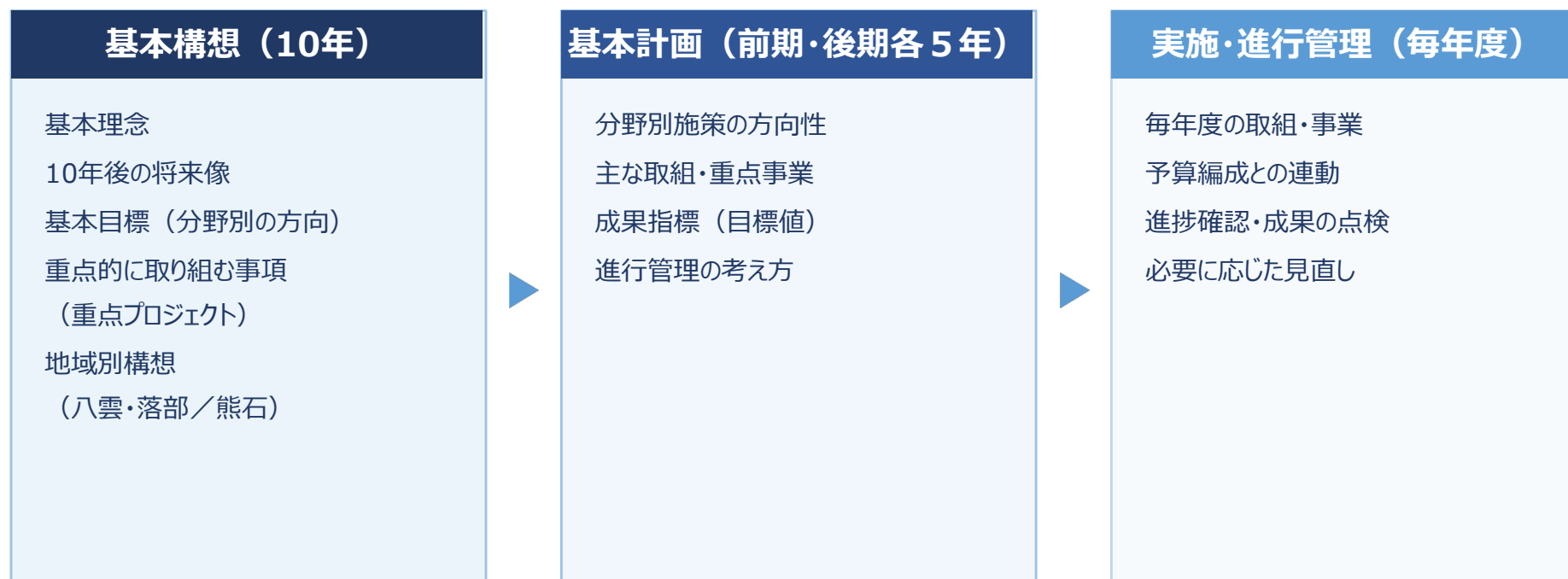


計画案は総合開発委員会の答申を経て、町長の判断と町議会の議決により決定します。

2 第3期八雲町総合計画の策定について

●総合計画の位置付け・構成

総合計画は、八雲町が目指す将来の姿と、その実現に向けた町政の基本的な方向性を示す町の最上位計画です。基本構想・基本計画・実施計画の3層で構成します。



●計画期間

2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)	2032 (R14)	2033 (R15)	2034 (R16)	2035 (R17)	2036 (R18)	2037 (R19)
基本構想（10年間）									
前期基本計画（5年）					後期基本計画（5年）				

参考：第2期八雲町総合計画の計画体系

現行計画は「基本理念 → 将来像 → 基本目標 → 施策」の体系を基本として構成されています。第3期計画では、この体系を踏まえながら、重点的に取り組む事項や地域別の将来像を検討します。



第3期計画では、現行体系を踏まえながら、重点的に取り組む事項や地域別の将来像を検討します。

2 第3期計画策定の基本的な考え方

人口減少や財政制約、地域ごとの特性を踏まえ、次の3つの考え方を大切にしながら計画づくりを進めます。

1

**人口減少・財政制約を
踏まえ、重点を考える**

限られた人材・財源のなかで「何を守り、何を伸ばすか」を整理する

すべてを一律に維持するのではなく、優先して取り組む事項を明らかにします。
見直しや進め方の工夫が必要な取組についても、委員会・町民と共有しながら検討します。

2

**地域の特性・強みを活
かして未来を描く**

二つの海に育まれた産業・自然・歴史文化を将来につなげる

八雲・落部地域、熊石地域それぞれの特性や役割を捉えて将来像を検討します。
町全体としての一体感と、地域ごとの個性の両立を目指します。

3

**町民と行政がともに動く
計画をつくる**

つくって終わりではなく、策定後の取組・見直しにつながる計画へ

データと対話をもとに将来像・重点事項・施策を整理します。
成果指標や進行管理の考え方を整理し、進み具合を確認できる形にします。

3 策定に向けた取組の全体像

「調べる」「行政の実感を聞く」「町民・地域と話す」を重ね、その結果を総合開発委員会の審議を通じて基本構想・基本計画へつなげます。



3

令和 8 年度は現況把握・意見把握を進め、令和 9 年度に基本構想・基本計画を段階的に具体化し、計画案の答申へつなげます。

取組	令和 8（2026）年度									令和 9（2027）年度													
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
現況分析	→																						
アンケート				10月ごろ →																			
ワークショップ等			地域懇談会	●																			
			団体懇談会		●																		
		中高生懇談会	①	②								③											
			町民会議	①			②					③											
	トップインタビュー	●																					
審議会				①			②		③		④		⑤		⑥	⑦	⑧						
基本構想			→															意見公募 による 意見 反映		計画案の 完成			
基本計画									→														

3 令和8年度の主な進め方

今年度は「調べる → 聞く → 整理する → 次の検討へ」の4段階で進めます。行政側の課題把握と基礎データ整理を先に行い、町民・地域・若い世代の意見を段階的に把握します。

① 調べる	② 聞く	③ 整理する	④ 次の検討へ
7～8月 現況データと行政の実感を把握 7/1 第1回打合せ（策定方針） 人口・産業・暮らし等の基礎データ整理 8/17・18 各課ヒアリング（26部署） 第2期計画の成果・課題の確認	9月 外部・町民の声を聞き始める 9/12 上智大学生との意見交換 9月末～ 住民アンケート（3,000人） 9月末～ 団体アンケート（100団体） 各課ヒアリング結果の取りまとめ	10月～冬 現状・論点を共有し、地域で深く話す 10/7 第1回総合開発委員会（本日） 地域懇談会・団体懇談会 中学生・高校生懇談会 八雲まちづくりLABO（町民会議）	年度内 意見・調査結果を整理し次の検討へ アンケート結果の集計・分析 人口ビジョン（将来推計）の検討 基本構想の骨子の検討 第2回総合開発委員会

令和8年度の到達点：

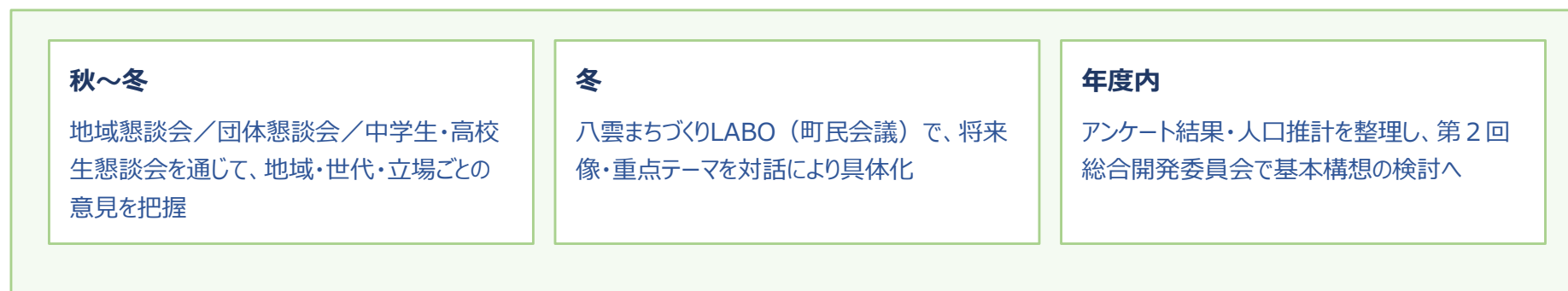
八雲町の現状・課題と町民等の意向を整理し、令和9年度の基本構想・基本計画の具体化につなげます。

3 これまでの取組状況と今後の予定

●これまでの取組（実施済み・実施中）



●今後の予定



4 各課ヒアリングの実施について

第2期計画の成果・課題と、今後10年間を見据えて重点化・見直しが必要な取組を把握するため、庁内各部署へのヒアリングを実施しました。

●実施概要

実施日	令和8年8月17日（月） ・18日（火）
対象	庁内 26部署
実施体制	3班 で並行して実施
所要時間	1部署あたり 20～40分 程度
実施場所	八雲町役場、落部支所、熊石地域の各施設等

●ヒアリングの目的

第2期計画に位置付けた施策・事業の成果と課題を確認する
今後も継続・強化する取組、見直しが必要な取組を確認する
今後10年間で重要になる課題や、新たな取組を把握する
KPI・成果指標の継続・見直し・新設の方向性を確認する
八雲・落部地域、熊石地域の地域別構想に反映する論点を確認する

●ヒアリング結果の活用

施策体系の検討

重点的に取り組む事項

地域別構想

成果指標の設定



第3期計画の
検討材料へ

4 各課ヒアリングで確認した主な内容

各部署に共通する5つの視点を基本に、部署ごとの担当分野や地域特性に応じた追加事項も確認しました。

1

今後の重点課題・ 新たな取組

今後10年間で重要になると考えられる課題
新たに位置付けたい取組／現在構想・検討している事項

2

第2期計画の 成果と課題

成果があった施策・事業／課題が残る施策・事業とその要因
計画策定時から変化した状況

3

第3期計画での 取扱い

継続・強化する取組／内容・対象・規模等の見直しが必要な取組
次期計画で特に重視したい取組

4

KPI・成果指標

継続・見直し・廃止する指標／目標値・把握方法の課題
新たに設定を検討したい指標

5

庁内連携・ 地域別の課題

分野をまたぐ連携・役割分担の課題
八雲・落部地域と熊石地域で補完・共有できる機能・取組

ヒアリング結果 → 施策体系／重点的に取り組む事項／地域別構想／成果指標の検討へ反映

26部署のヒアリング結果を横断し、複数部署に共通して確認された課題・今後の方向性を整理します。

担い手・人材

行政職員・専門職・産業の後継者・地域活動の役員まで、あらゆる層で不足が同時進行

- 行政：デジタル／技術職員の確保難と若手の退職、消防は61名（必要70～80名）、熊石・落部支所は維持自体が困難
- 専門職：常勤内科医不在（総合病院）、国保病院は医師2名、介護・保育・福祉職も余裕なし
- 産業：漁業者減、離農、林業の定着難、商店の跡継ぎ不在
- 地域：町内会役員、祭りの準備、サークルの高齢化、議員のなり手
- 打ち手は共通化：外国人材、広域連携、協力隊、資格取得支援

施設・サービスの維持

「新規整備はしない」を前提に、老朽化対応・再編・地域バランスをどう両立するか

- 老朽化：町民センター、郷土資料館、図書館、消防庁舎（耐震未達）、温泉・キャンプ場
- 再編検討：保育施設8か所、学校適正配置と義務教育学校化、集会施設、町内会、廃校・住宅の処分
- 減らせない事情：温泉の湯が養殖等に波及、集会所は避難所兼用、3地域の距離
- コストの可視化例：温水プールは燃料費年1,500万円／利用者は半減
- 前提：基金・ふるさと納税依存からの脱却と予算縮小

事業・取組の見直し

「増やす」から「維持・転換」へ。縮小／機能転換／重点のシフトの3つの型が出ている

- ・ 縮小：4町連携、小牧市交流、野菜フェア、合宿誘致、読解力向上（成果達成による終了）
- ・ 機能転換：図書館は貸出から居場所へ、子育ては発生後対応から予防へ、病院は拡充より機能維持
- ・ 重点シフト：移住定住より交流・関係人口、対象を退職世代から若い世代へ
- ・ 通いの場もボランティアも「増やす」から「維持する」へ
- ・ DXは目的化させない。守り（庁内）は進展、攻め（住民・産業への波及）が手薄

庁内・地域との連携

1課では完結しない課題が主流に。対象者の重複整理と、地域・広域への役割移譲

- ・ 重複整理：子ども・高齢者に複数課の類似事業、母子保健×児童福祉、部活動の地域展開
- ・ 仕組み：新庁舎での同居と機構改革、ワンストップ窓口、コミュニティスクール
- ・ 地域移譲：熊石は見守り・防災を町内会中心に自立要請
- ・ 広域：漁協・医療・人材で町域を越えた連携が既に前提
- ・ 多文化共生：落部は住民の2割が外国人、交流の受け皿が未定
- ・ 新しい入口：高校生の活躍、「役員は無理でも祭りなら」層の発掘

成果の捉え方

人口減少下で「量」の指標が成立しない。率・質・継続性へ

- ・ 母数減で増加目標が非現実的：参加者数、貸出冊数、施設利用者数
- ・ 数値が成果を映さない：病床利用率、高校進学率、合宿誘致数
- ・ 数値化しにくい：相談の質、防犯活動の効果、教育の質
- ・ 方向：参加率、継続性・リピーター、満足度、回数→出席率
- ・ ただし全課一律ではなく、類型ごとの整理が現実的

4

各課ヒアリングから見えてきたこと② 分野・地域別の論点

分野別・地域別に整理し、次期計画の施策体系や地域別構想へ接続する論点を明らかにします。

保健・医療・福祉

- ・ 常勤内科医の不在・介護人材不足のなかで、必要な医療・介護機能をどこまで維持するか
- ・ 拡充ではなく「予防と早期支援」への重点移行（虐待・介護予防・特定健診）
- ・ 相談内容の複雑化に対応する専門人材と、通いの場・ボランティアの維持

教育・子育て

- ・ 学校の適正配置・義務教育学校化と、通学環境（バス・デマンド交通）の再設計
- ・ 保育施設8か所の再編と、少子化で利用が減る子育て事業の実施方法の見直し
- ・ 発達支援ニーズの増加、部活動の地域展開、八雲高校の魅力づくりを町の政策として位置づけ

産業・雇用

- ・ 担い手・後継者の確保が農林水産・商工に共通（漁業の参入障壁、林業の定着難、商店の廃業）
- ・ 気候変動への対応（サケ不漁、高水温、鳥獣被害）が新たな前提条件に
- ・ サーモン養殖・海業・ブランド化など、既に動いている芽をどう伸ばすか

生活基盤・環境

- ・ 路線バスの廃止・減便とデマンド交通の実証、買い物の場の減少
- ・ 避難所の収容力不足（八雲地区8,000人に対し340人）と施設の耐震・老朽化
- ・ 新幹線開業が2038年に後ずれ、駅周辺整備・並行在来線は先送り

地域・行政運営

- ・ 「新規整備はしない」前提での施設の再編・長寿命化と、基金・ふるさと納税に頼らない財政
- ・ DXは目的化させない。守り（庁内）は進展、攻め（住民・産業向け）が手薄
- ・ 職員の確保・定着（デジタル／技術職、若手の退職）と新庁舎を機とした庁内連携

地域別の論点（八雲／落部／熊石）

- ・ 熊石：支所・介護・保育の維持が限界に近く、窓口のオンライン化や地域の自立運営が論点
- ・ 落部：住民の2割が外国人。実習生の生活支援と交流の受け皿づくり
- ・ 3地域の距離を前提に、集約ではなく「補完し合う」機能配置をどう描くか

5 八雲町の現況・特性 ～「まちのカルテ」

人口・産業・暮らし・公共施設・地域資源等の基礎データを整理し、八雲町全体と地域ごとの強み・課題・可能性が見える化します。

●全町の「まちのカルテ」で整理する項目

人口・世帯

総人口の推移／年齢3区分・高齢化率／
自然増減・社会増減／世帯

産業・雇用

産業構造／就業状況／担い手・後継者／
地域内循環・付加価値

子育て・教育

子ども数の推移／保育・学校の状況／若い
世代の進学・定着

医療・福祉

高齢化の状況／医療・介護の提供体制／健
康・支え合い

暮らし・生活基盤

交通・移動／買い物・生活機能／住宅／防
災・環境

公共施設・財政／地域資源

施設の状況・更新／財政見通し／二つの海・
自然・歴史文化



地域別の「まちのカルテ」へ

八雲・落部地域

人口・暮らし・中心機能・農業／水産業等を一体的に把握しつつ、
八雲・落部それぞれの特徴も整理します。

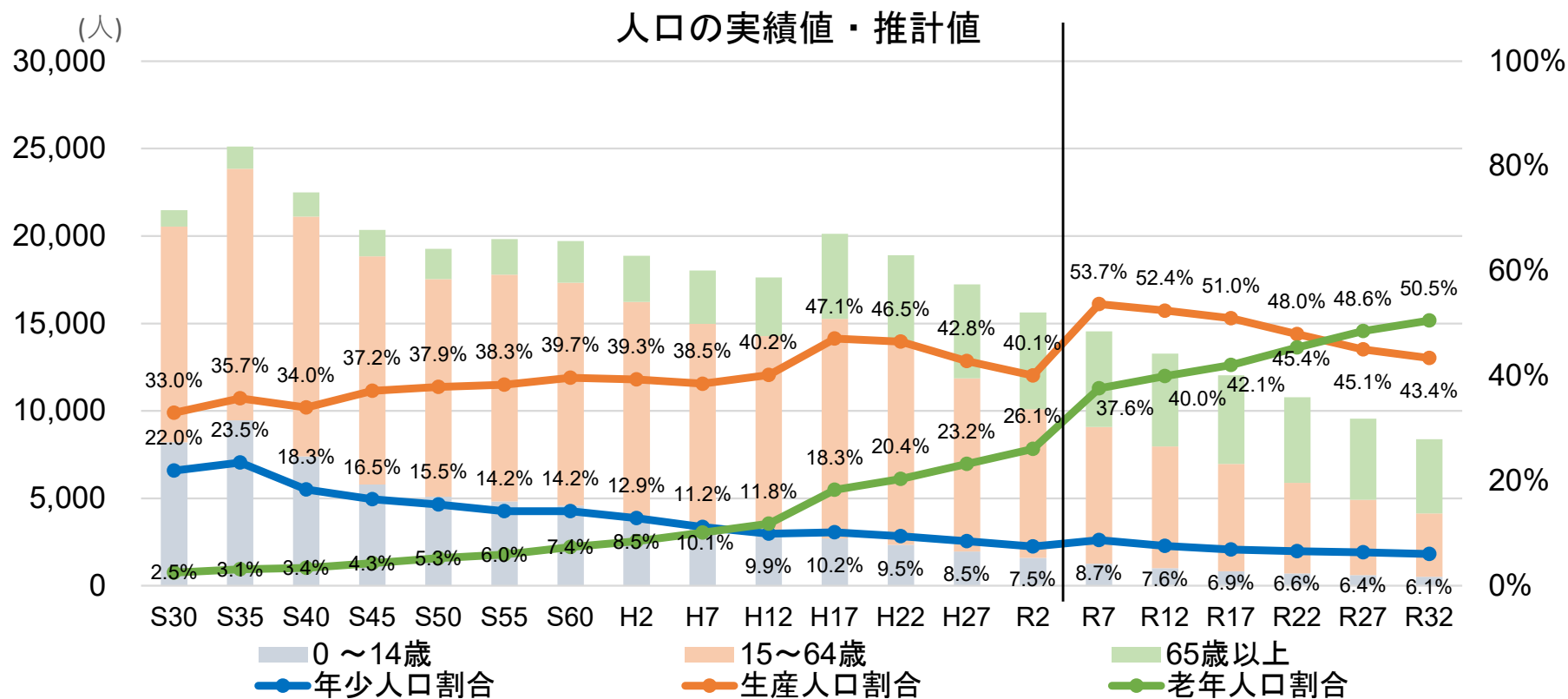
熊石地域

人口・生活機能・医療福祉・水産業・観光・地域資源等を整理し、
地域別構想の検討材料とします。

5 人口・世帯からみる八雲町

人口減少の規模だけでなく、年齢構成・自然増減／社会増減・地域差を捉え、今後の暮らしや担い手への影響を整理します。

■ 総人口の長期推移（国勢調査ベース）



このデータから考えること

人口減少と生産年齢人口の縮小は、産業・地域活動・行政サービスなど**あらゆる分野の担い手確保**に影響します。

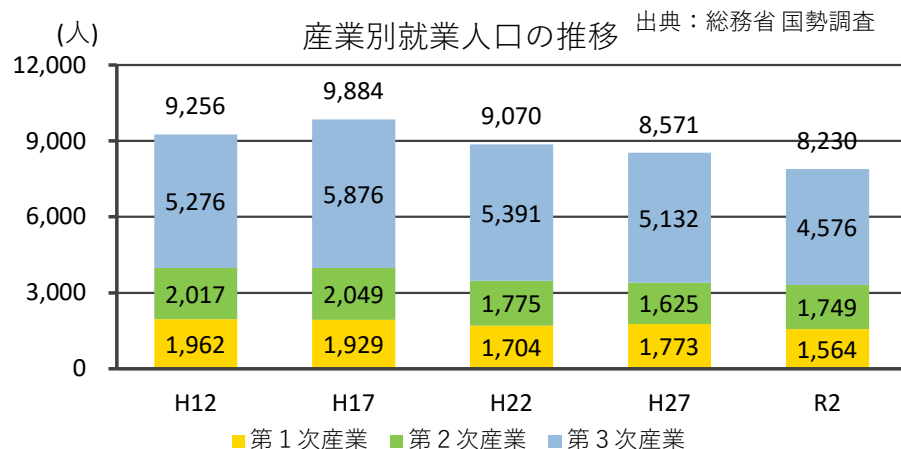
町全体の平均だけでなく、**八雲・落部地域と熊石地域の地域差**を確認しながら検討する必要があります。

若年層の転出や自然減の状況を踏まえ、定住だけでなく**Uターン・関係人口**も含めて考えることが重要です。

5 産業・雇用・暮らしからみる八雲町

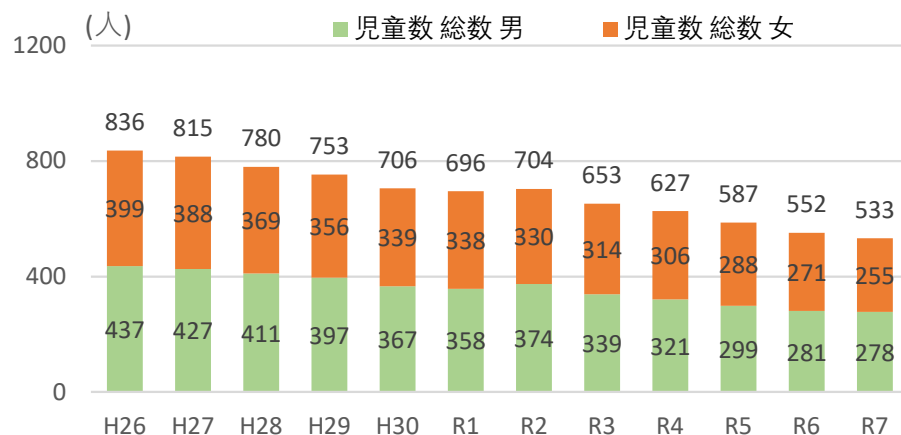
地域経済を支える産業の強みと、人口減少・高齢化の中で維持すべき暮らしの機能を、分野横断で整理します。

① 産業・就業



- ・ 酪農と水産業を中心とする一次産業が、就業者の約2割を占め、地域経済の基盤となっています。
- ・ 就業者はこの20年で約1,000人減少しており、事業所の維持と担い手・後継者の確保が課題です。
- ・ 食の高付加価値化や観光との結びつきを通じて、稼ぐ力を高め、地域内で経済を循環させることが求められます。
- ・ 外国人材を含む多様な人材の確保と、それを受けとめる多文化共生の環境づくりが必要になっています。

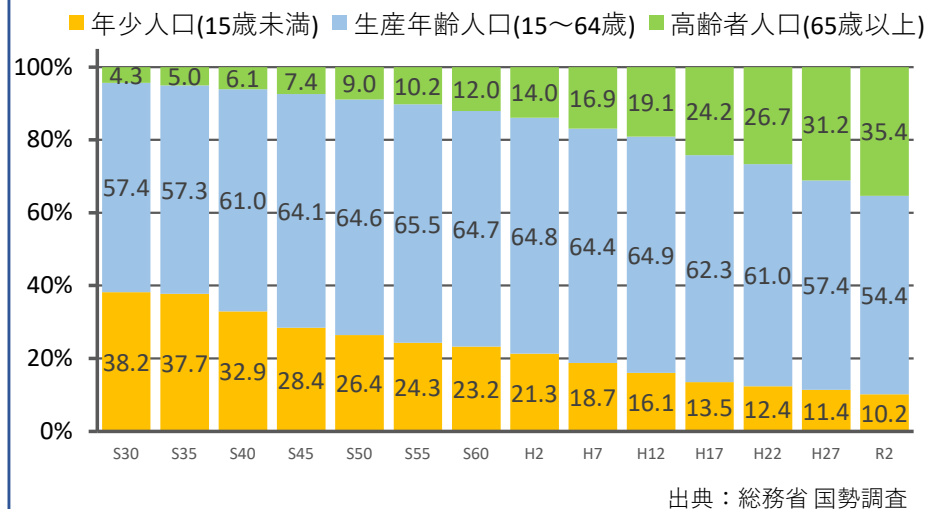
② 子育て・教育



出典：各年5月1日現在 学校基本調査

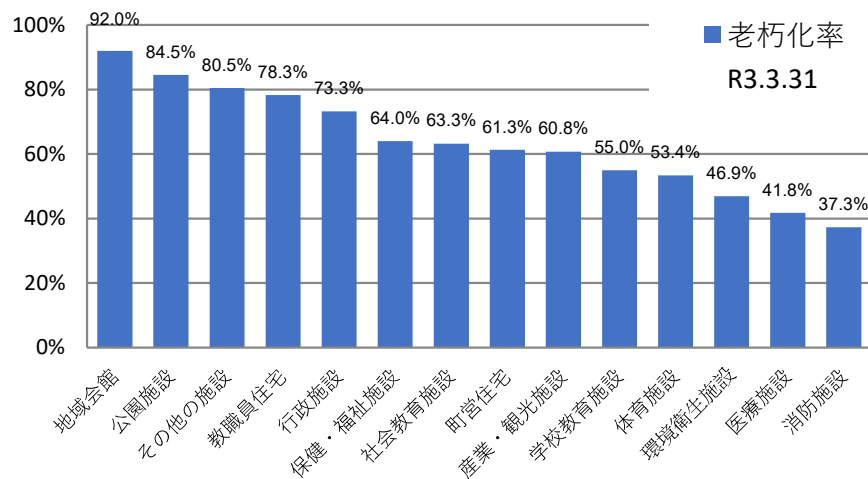
- ・ 児童数はこの12年で303人（△36%）減少し、学校の適正配置と保育環境の見直しが必要になっています。
- ・ 合計特殊出生率1.54は周辺市町を上回っており、この強みを活かした生み育てやすい環境づくりが期待されます。
- ・ 学校施設の維持・更新に加え、統合により八雲地域へ学校が集中していることへの対応が課題です。
- ・ 進学・就職に伴う若い世代の転出が続いており、定着やUターンにつながる仕組みが求められます。

③ 医療・福祉



- ・ 高齢化率は35.4%に達し、令和12年には38.3%まで上昇する見通しです。
- ・ 総合病院を含む医療・介護の提供体制をどう維持し、専門人材をどう確保するかが課題です。
- ・ 移動・買い物・見守りなど、高齢者の日常の暮らしを支える仕組みづくりが必要です。
- ・ 健康づくりや介護予防を進めるとともに、高齢者が役割を持って活躍できる場が求められます。

④ 生活基盤・公共施設



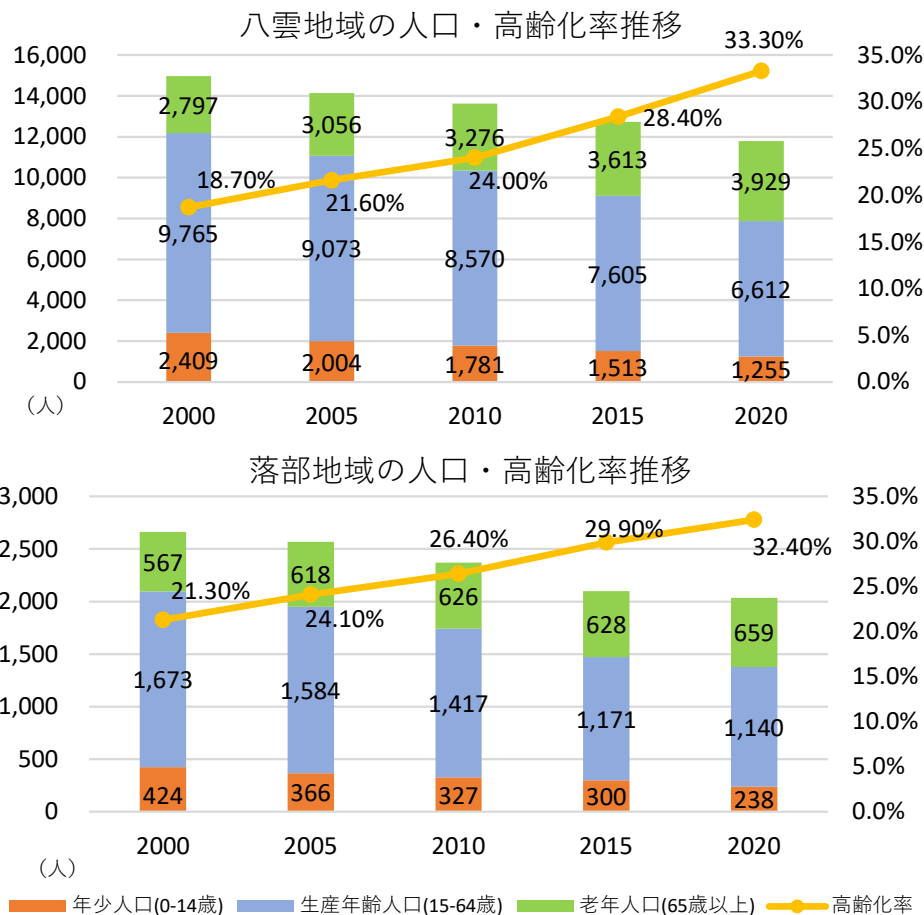
- ・ 公共施設の老朽化率は55.0%に達し、地域会館など5つの分類が70%を超えています。
- ・ 更新費用は年13.7億円と見込まれる一方、充当できる財源は年8.4億円にとどまります。
- ・ 住宅・上下水道・道路橋梁など、暮らしを支えるインフラの維持・更新が課題です。
- ・ 交通や買い物などの生活機能に加え、防災・避難の機能をどう守るかが問われます。

分析の視点：強みを「稼ぐ力・雇用」につなげることと、暮らしに必要な機能を持続可能な形で守ることを、両面から検討します。

5 地域カルテ① 八雲・落部地域

八雲・落部地域を一つの生活圈として捉えつつ、八雲地域・落部地域それぞれの特徴や役割も整理します。

■ 地域別人口・年齢構成



八雲地域の特徴（整理枠）

- 行政・医療・教育・商業等の中心機能が集まり、町全体の暮らしを支える
- 酪農をはじめとする農業と、噴火湾の水産業が地域経済を支える
- 交通の結節点として、周辺市町とのつながり・広域連携の役割
- 市街地の空き店舗・空き家、施設の更新など、中心部特有の課題

落部地域の特徴（整理枠）

- 噴火湾沿岸の水産業（ホタテ等）や、もち米などの農産が地域の生業
- 支所を中心とした行政サービスと、地域に根ざしたコミュニティ活動
- 八雲地域の中心機能を利用しながら暮らす、生活圈としてのつながり
- 日常の買い物・移動、地域活動の担い手確保が今後の課題

地域の概況（整理枠）

町の人口の大部分が集まる地域
 役場・病院・高校・商業施設等の中心機能が集積
 国道5号・函館本線が沿岸部を縦貫し、周辺市町との往来が多い

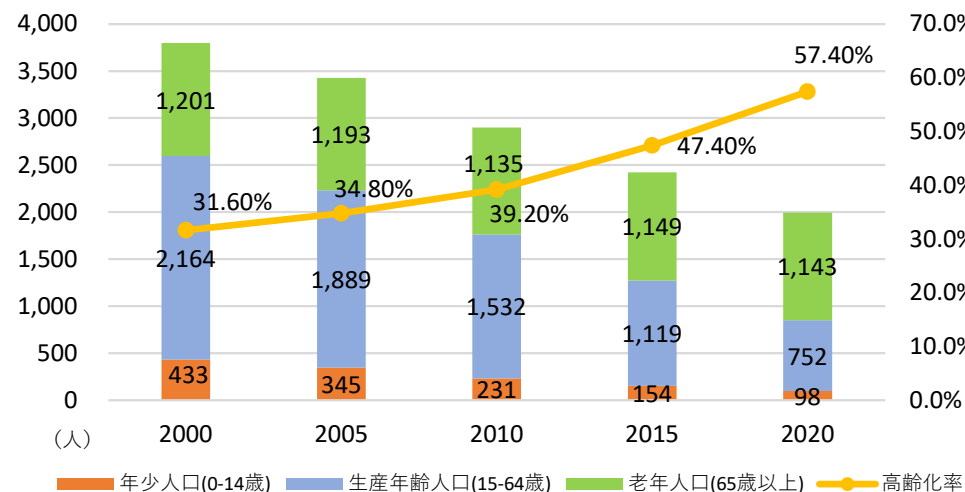
第3期計画の地域別構想で考える視点

今後も地域で守るべき暮らしの機能・地域資源は何か
 八雲・落部で連携・補完できる機能や取組は何か
 人口減少下でも、地域の強みを活かして伸ばせることは何か
 中心機能を町全体でどう活かしていくか

5 地域カルテ② 熊石地域

熊石地域の人口・生活機能と、日本海側ならではの産業・自然・歴史文化等の地域資源を一体的に整理します。

■ 地域別人口・年齢構成



地域の概況（整理枠）

日本海に面し、八雲・落部地域とは山を挟んで位置する地域
人口減少・高齢化が町全体より先行して進む
支所を中心に、行政・医療・福祉等の生活機能を確保

地域資源・産業（整理枠）

- 日本海の水産業と、海洋深層水を活かした産業・商品づくり
- 温泉・自然景観など、滞在・体験につながる観光資源
- 歴史・文化、地域行事など、地域の誇りとなる資源の蓄積
- 資源を「稼ぐ力」「交流」へつなげる担い手・仕組みづくりが課題

暮らし・生活機能（整理枠）

- 医療・福祉サービスの確保と、専門人材の確保
- 移動・買い物などの日常生活の支援、移送サービス
- 行政サービス・公共施設のあり方と維持・更新
- 地域コミュニティ・地域活動の担い手確保

第3期計画の地域別構想で考える視点

今後も確保すべき行政・医療・福祉・生活機能は何か
産業・自然・歴史文化を活かし将来につなげる取組は何か
八雲・落部地域と補完・共有できる機能や取組は何か
地域の誇り・愛着を次の世代へどう引き継ぐか

6 上智大学生との意見交換について

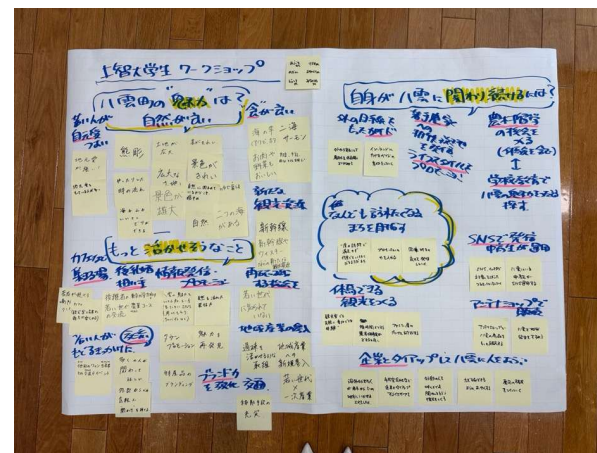
八雲町を訪れる大学生の「外からの目」を通じて、町の魅力・気づきや、今後も関わり続ける可能性を把握し、計画づくりに活かします。

●実施概要

実施日	令和8年9月12日（土） 10:30～12:00
参加者	上智大学生 12名
実施方法	来町時に、町内の視察を踏まえて対面で意見交換
計画への活用	将来像・関係人口の検討材料

●主な意見交換テーマ

- ・ 八雲町の「魅力」と、町外の人に「伝えたいこと」
- ・ 八雲町のもったいない・改善できそうと感じたこと
- ・ 自分自身がこれからも八雲町と関わるならどんな関わり方があるか



●いただいた主な意見・気づき

魅力・良いと感じたこと

- ・ 海・山・川がそろい、二つの海を持つ雄大な自然と景観（広大な土地、星空、ゆったりした時間）
- ・ ホタテ・アワビ・二海サーモン、野菜・肉・牛乳など、海と大地の恵みによる豊かな食
- ・ 水産業・農業・酪農など多様な産業と、高い技術を持つ人々
- ・ 地元愛が強く、人のつながりが深い風土（八雲が好きな子どもたち）
- ・ 木彫り熊などの文化、新幹線やウイスキーなど新たな資源への期待

課題・気づき

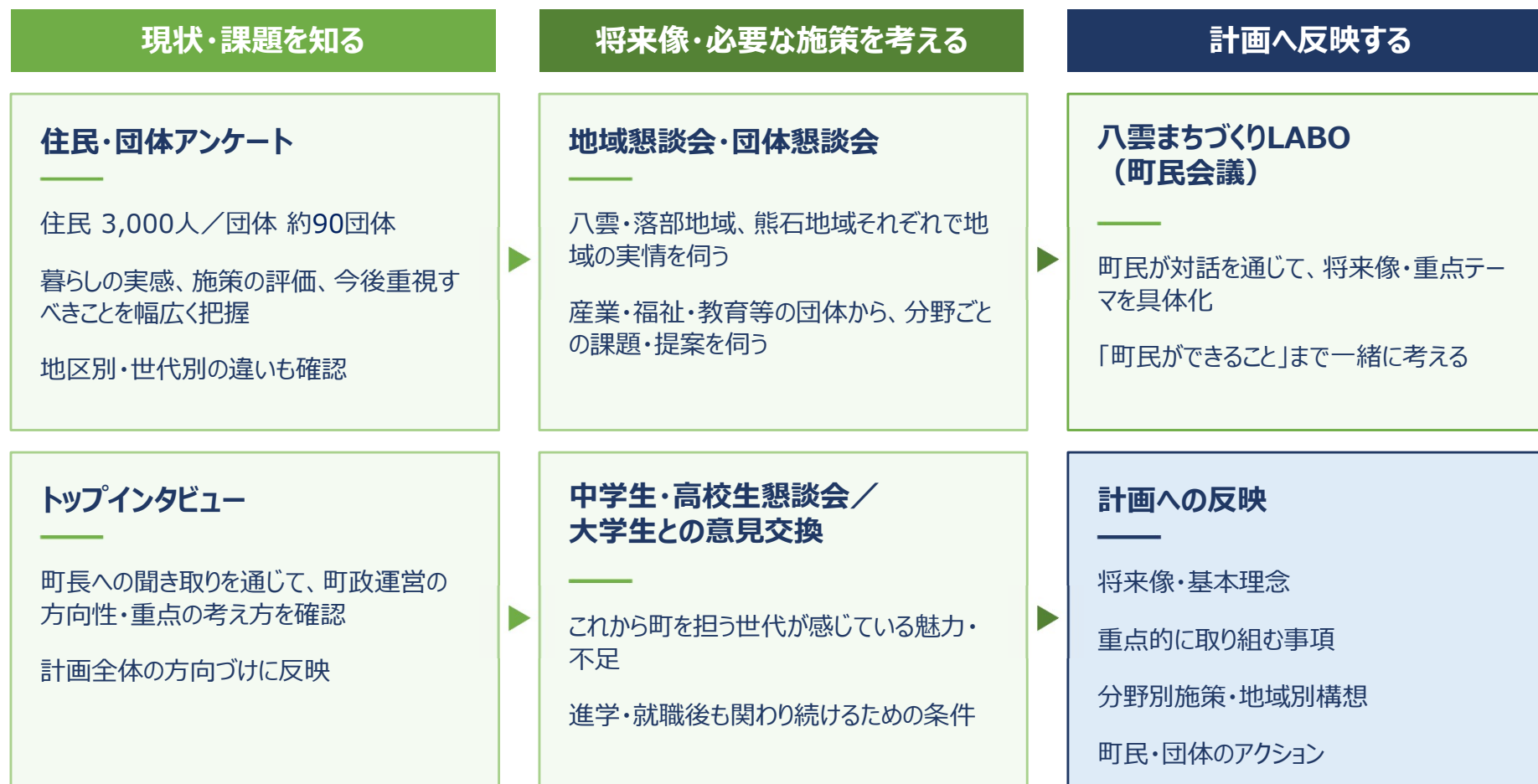
- ・ 魅力を十分にPRできておらず、町内の若い世代にも伝わっていない
- ・ 若者や多世代が気軽に集まれるカフェなどの場が少ない
- ・ 地域産業の後継者・担い手が不足し、若い世代が関わる機会が少ない
- ・ 産業や食を「八雲ブランド」としてつなげ、活かす余地がある
- ・ 町外の人が継続的に関われる機会や移動手段が不足

関わり続けるアイデア

- ・ 外からの目線で八雲の「なんかいい」を言語化し、SNS等で発信する〈知る・発信する〉
- ・ 農業・水産業体験、農村留学、インターン、ホームステイに参加する〈体験・滞在する〉
- ・ 地域企業・大学・中高生との共同企画やイベントに参加する〈一緒に取り組む〉
- ・ 四季の魅力をきっかけに繰り返し訪れ、就業や新規参入などにつなげる〈何度も訪れる〉

6 町民・若い世代とともに進める計画づくり

アンケートで幅広く意見を聞き、懇談会・町民会議等で地域や分野ごとの考えを深掘りしながら、基本構想・基本計画へ反映します。



ポイント：町民の「要望」を聞くだけでなく、地域の強み・守りたい暮らし・自分たちができることまで一緒に考え、策定後の取組につなげます。

6 住民・団体アンケート調査を実施しています

これまでのまちづくりの評価だけでなく、これからの八雲町について町民・団体の考えを把握するための調査です。本委員会の開催時点では回答期間中を予定しています。

令和8年10月中旬から 約1か月間 実施

住民アンケート

3,000 人 / 18歳以上の町民（無作為抽出）

方法：郵送配布／紙（郵送）＋Web回答

主に把握すること

暮らしの実感・住みやすさ、定住意向

これまでの施策の評価（満足度・重要度）

今後重視すべきこと、10年後の望ましい姿

まちづくりへの参加意向

団体アンケート

約 **90** 団体 / 町内で活動する団体等

方法：郵送配布／紙（郵送）＋Web回答

主に把握すること

団体活動の現状・課題、担い手の状況

人口減少による影響と今後の見通し

産業振興・地域活動に必要な取組

八雲町のまちづくりの課題・期待するもの

集計・分析後、地区別・世代別等の違いも確認し、将来像・重点事項・分野別施策の検討へ反映します。

6 アンケートで把握する主な内容

これまでのまちづくりの評価に加え、人口減少を見据えた今後の優先事項や、町民の幸福度・望ましい将来像を把握します。
(全32問／18歳以上3,000人)

①暮らし・住みやすさ・愛着（問7～13）

町・地域への愛着、住みやすさの評価
定住／転出の意向とその理由、まちの良さ・欠点

②現行施策の評価（問14・15）

第2期計画の認知度
5つの基本目標・32分野ごとの満足度と重要度

③人口減少とこれからの行財政（問16～20）

人口減少・少子高齢化の実感と、暮らしへの影響
重点を置くべき分野、公共施設のあり方、行財政改革の方向

④北海道新幹線・新八雲（仮称）駅関連（問21～24）

全線開業への期待と不安
開業を契機に取り組むべきこと、活用のアイデア

⑤協働のまちづくりへの関わり（問25～28）

町民参加の実現度、これから参加したい活動
町からの情報提供の評価、参加を進めるために必要なこと

⑥幸福度と10年後の八雲町（問29～32）

現在の幸福度・理想の幸福度と、それを左右する要素
望ましい将来の八雲町の姿、まちづくりへの意見

分析：単純集計に加え、地区別（八雲・落部・熊石）・世代別・職業別等のクロス集計と、自由記述（問13・24・32）の整理を行い、将来像・重点事項・分野別施策等の検討に反映します。

7 第3期計画に向けた主な検討視点

現況・各課ヒアリングを踏まえると、今後の計画づくりでは次のような視点が重要になると考えられます。

① 担い手の同時不足

あらゆる層で担い手不足が同時進行

行政：消防61名（必要70～80名）、デジタル・技術職員の確保難
専門職：常勤内科医不在、国保病院は医師2名
産業・地域：漁業者減・離農・跡継ぎ不在／町内会、議員のなり手

② 産業の稼ぐ力

一次産業が就業者の約2割。強みを付加価値・雇用へ
就業者は20年で約1,000人減
サーモン養殖・海業・ブランド化の芽をどう伸ばすか
気候変動（サケ不漁・高水温・鳥獣被害）が新たな前提に

③ 若者・子育て世代

児童数は12年で△36%。一方で出生率は周辺市町を上回る
合計特殊出生率1.54という強み
保育施設8か所の再編、学校の適正配置と通学環境
進学・就職での転出。定着・Uターン・関係人口

④ 暮らしを支える機能

高齢化率35.4%→令和12年38.3%。どこまで守るか
医療・介護：拡充ではなく機能維持と人材確保
移動・買い物：バス減便、デマンド交通、買い物の場の減少
防災：避難所の収容力不足（8,000人に対し340人）

⑤ 公共施設・財政（守る財源をどうつくるか）

減らす検討と、原資をつくる検討を両輪で

老朽化率55.0%、使用料・受益者負担の考え方の整理
廃校・町有地・町営住宅を「処分」だけでなく「活用」の対象に
ふるさと納税を「依存」から「域内調達を増やす仕組み」へ

⑥ 三地域の役割・連携

地域ごとに進み方が大きく異なる

熊石：高齢化率57.4%。支所・介護・保育の維持が限界に
落部：住民の2割が外国人。生活支援と交流の受け皿
集約ではなく「補完し合う」機能配置へ

⑦ 取組の「維持・転換」

増やす前提が成り立たない

機能転換：図書館は貸出から居場所へ
重点シフト：移住定住より交流・関係人口
指標も量から率・質・継続性へ

⑧ 地域コミュニティ・共創

1課・1地域では完結しない

庁内：重複事業の整理、新庁舎を機とした連携
地域移譲：熊石は見守り・防災を町内会中心に
新しい入口：高校生の活躍、「祭りなら関われる」層

意見交換

本日は、特に次の2つの視点からご意見をいただきたいと思います。

これからの八雲町で大切にしたいこと

10年後も守っていききたい八雲町の強み・暮らし・地域資源はどのようなものでしょうか。
人口減少等を踏まえ、今後特に力を入れる必要があると感じることは何でしょうか。

地域ごとに考えておくべきこと

八雲・落部地域、熊石地域それぞれで今後も大切にしたい機能・資源は何でしょうか。
地域間で連携・補完できること、地域ごとに異なる課題や可能性はありますか。